

愛知県初記録の外来淡水巻貝コモチカワツボ

西 浩孝*・松岡敬二*

First record of the alien freshwater snail *Potamopyrgus antipodarum* from Aichi Prefecture, Japan

Hiroataka Nishi * and Keiji Matsuoka *

はじめに

コモチカワツボ *Potamopyrgus antipodarum* は 1990 年に三重県で確認されて以来、日本で分布を広げている外来の淡水貝類である。ヨーロッパやニュージーランド、オーストラリアから生きてそのまま輸入された養殖用のマスやウナギに混じって日本に侵入したと考えられている（増田ほか，1998；浦部，2007）。国内各地への分散方法としては、第一に養殖魚類に混入しての人為的移動が考えられる。そのほか、水草などその他の生物が移植される際に随伴して分散したり、ゲンジボタルの増殖を目的として餌として意図的に移植されている可能性も指摘されている（浦部，2007）。2007 年までに北海道から宮崎県まで 1 道 1 府 13 県で生息が確認されている（浦部，2007）。東海地方では三重県、岐阜県および静岡県で確認されているが（浦部，2007）、これまで愛知県内からの報告はなかった。筆者らはコモチカワツボを愛知県の 2 か所で採集したので、ここに報告する。

採集地の状況

著者の 1 人松岡は、1998 年 1 月 7 日に愛知県豊橋市羽根井町西町の暗渠から採集された大量のタイワンシジミ *Corbicula fluminea* の寄贈を受け、その中に混入していたコモチカワツボを発見した。この暗渠は養

鰻場からの排水が流れている。

また松岡は 2008 年 7 月 19 日、愛知県宝飯郡小坂井町小坂井にある「トンボ公園」横の細い水路（第 1 図）からもコモチカワツボを採集した。2008 年 9 月 24 日に西が再調査した際にも、多数の個体の生息が確認された。この水路は三面コンクリート張りであるが底には砂ないし小礫が堆積しており、底や壁面にはウキゴケなどのコケ類や糸状藻類、オオカナダモが生育していた。幅約 40cm、流速は毎秒約 2.0m、水深は 7～17cm であった。同じ水路からは、チリメンカワニナ *Semisulcospira reiniana* とウエジマメシジミ *Pisidium (Odhneripisidium) uejii* の生貝およびスクミリングガイ



第 1 図. 小坂井町小坂井のコモチカワツボの採集地。2 本ある水路のうち、左側の細い水路でコモチカワツボが確認された。

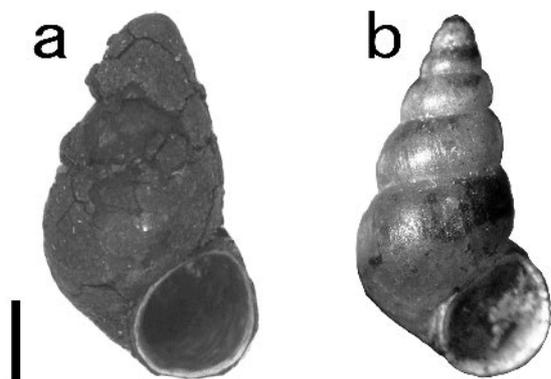
* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi 441-3147, Japan.

原稿受付 2009 年 1 月 6 日. Manuscript received Jan. 6, 2009.

原稿受理 2009 年 1 月 14 日. Manuscript accepted Jan. 14, 2009.

キーワード：コモチカワツボ，淡水巻貝，外来種，愛知県。

Key words : *Potamopyrgus antipodarum*, Freshwater snail, Alien species, Aichi Prefecture.



第2図. 豊橋市および小坂井町産コモチカワツボ。
a, 豊橋市羽根井町西町産 (TMNH-MO 15821); b, 小坂井町小坂井産 (TMNH-MO 15911)。スケールバーは1mm。

Pomacea canaliculata の死殻が採集された。平行して流れている幅約 145cm の水路ではコモチカワツボの生息は確認できなかった。

先に述べたように、コモチカワツボは養殖魚類に混入しての移動が指摘されている。今回確認された豊橋市羽根井町の産地については、上流の養鰻場から移動した可能性がある。一方、小坂井町小坂井の水路の上流は湧水であり、移入経路は不明である。

検視標本

ミズツボ科 Family Hydrobiidae

コモチカワツボ *Potamopyrgus antipodarum* (Gray, 1843)

殻高 4 ~ 5mm, 殻径約 2mm, 殻は紡錘形で、螺層は 5 ~ 5.5 層よりなる。各螺層は膨れ、縫合は深い。殻表は平滑であるが、体層肩部に螺条脈状の一系列の殻皮毛列を有する個体がある。殻色は象牙色から黄褐色であるが、付着物のため生貝は通常黒色である。殻口は円形に近い卵形で、全縁である。

カワニナ *Semisulcospira libertina* の幼貝に一見類似するが、カワニナは殻口が全縁でないことから容易に区別できる (浦部, 2007)。小坂井町小坂井の水路においてコモチカワツボと同所的に生息するチリメンカワニナの幼貝とは、チリメンカワニナが殻表面の縦肋を有することによっても明らかに区別できる。

豊橋市羽根井町西町産 (第2図 a)。

採集年月日 1998年1月7日, 採集者 加藤良夫。
殻の表面は黒色の厚い付着物に覆われている。

豊橋市自然史博物館保管 (TMNH-MO 15821 ~ 15910)。

小坂井町小坂井産 (第2図 b)。

採集年月日 2008年7月19日, 採集者 松岡敬二。
豊橋市羽根井町産のような付着物はなく、殻は黄褐色である。

豊橋市自然史博物館保管 (TMNH-MO 15911 ~ 15915)。

謝 辞

中部日本放送の加藤良夫氏には、タイワンシジミの資料を提供いただき、結果的にコモチカワツボの発見につながった。小坂井町役場の岡竜二氏には、生息地付近の地図の入手に便宜を図っていただいたほか、生息地の水路の上流部について現地を調査していただいた。滋賀県立大学の浦部美佐子氏には、文献について情報をいただいた。愛媛大学の家山博史氏にはマメシジミを同定していただいた。感謝申し上げます。

引用文献

- 増田 修・早瀬善正・波部忠重, 1998. ヨーロッパ産 *Potamopyrgus jenkinsi* (Smith, 1889) に同定されたニホンカワツボとサクヤマカワツボ (前鰓亜綱: ミズツボ科). 兵庫陸水生物, 49: 1-21.
- 浦部美佐子, 2007. 本邦におけるコモチカワツボの現状と課題. 陸水学雑誌, 68: 491-496.